

2016年5月16日

SAAJ NEWS RELEASE

IAASB「公共の利益を踏まえた監査品質の向上」について意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会（会長：大場 昭義 東京海上アセットマネジメント株式会社 代表取締役社長）は、国際監査・保証基準審議会（以下 IAASB）が 2015 年 12 月に公表したコメント募集文書「公共の利益を踏まえた監査品質の向上」（以下 ITC）について意見書を作成し、5 月 16 日に IAASB へ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ IAASB が ITC において、会計監査人等を対象とした監査基準に関する詳細かつ専門的な説明及び質問項目とは別に、財務諸表利用者などを対象にした概括的な説明と質問項目を設定したことに感謝する。
- ✓ 我が国においても会計不祥事などを背景に、「職業的懐疑心」「品質管理」「グループ監査」という ITC の 3 つのトピックへの関心が高まっている。会計不祥事の第一義的な責任が被監査会社の経営者や経理担当者にあることを理解しながらも、「会計監査人がその役割を十分に果たしていないのではないか」という疑義を抱く財務諸表利用者も居る状況であり、ITC の公表は時宜を得ている。
- ✓ 特に会計監査人が被監査会社から報酬をもらうという構造的な利益相反を考慮すると、「監査人の適切な精神的独立性を保持した懐疑的な姿勢」は極めて重要である。各監査法人がリーダーシップを発揮して、監査の品質を重視する文化の醸成、職業的懐疑心の発揮、品質の向上に連動した報酬体系の導入に向けた対策を講じていくべきであろう。その意味では、「監査事務所レベルにおける積極的な品質マネジメントの奨励」も非常に重要であろう。
- ✓ 会計監査人の監査の品質がどのように保たれているかが財務諸表利用者にはよく解らないため、監査自体がブラックボックス化している様な印象を受けているのが実状である。まずは、会計上の見積りや収益認識等の監査人の重要な判断の文書化の徹底を通じて、「監査品質の透明性」の向上が図られていくことを期待している。

【添付資料 1】 *Re: Comment on The IAASB's Invitation to Comment*
"Overview Enhancing Audit Quality in the Public Interest"

【添付資料 2】 「公共の利益を踏まえた監査品質の向上
—職業的懐疑心、品質管理及びグループ監査—」について

本件に関するお問い合わせは下記まで

SAAJ 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：教育第 1 企画部長 かいます 貝増 眞